



機関リポジトリについて考えよう！
アーカイビングポリシーデータベース連携と制限公開からみる将来像

アーカイビングポリシーデータベース 連携機能実証実験の成果報告



筑波大学附属図書館
リポジトリ担当 藤田

本学の背景

1997年:電子図書館システム導入

2005年:リポジトリ名称決定「つくばリポジトリ(Tulips-R)」

2007年:選任の係としてスタート(それまでは班、他係で兼任)

2014年:5月 DSpaceからJAIRO Cloudへの移行(移行第1号)

2015年:11月 オープンアクセス方針の採択

2016年:リポジトリ10周年

2017年:紀要、博士論文へのDOI付与開始

2018年:TRIOS(研究者総覧)連携、著者名典拠ID運用開始

2019年:著者名典拠統合、新JAIRO Cloud移行評価実験参加

2020年:新JAIRO Cloud β テスト参加

アーカイブポリシーDB実証実験参加

本学の現状

通常登録業務

- ・ TRIOS抽出WoS由来の本学教員の論文データを出力(他担当に依頼)加工して非常勤さんへ
オープンアクセス方針に従い、つくばリポジトリへ登録
教員へ登録報告のメール、エンバーゴ有はその旨も連絡

問題点：ポリシー確認等に時間がかかっている
著者版等の提供依頼は個別にメール送信
→返信がないケースも……

本学の現状

通常登録業務

前回出力分の登録が終わる頃に再度データ出力依頼

- ・ 紀要や論文などの登録依頼は随時登録

アップローダー経由、TRIOS経由、メール添付、直接持込等

- ・ つくばリポジトリコンテンツ数（累積数）

2017年度:45,096（内学術雑誌 8,928 紀要論文18,593）

2018年度:48,105（内学術雑誌 9,665 紀要論文19,337）

2019年度:52,689（内学術雑誌 10,708 紀要論文21,133）

実証実験

2020年10月上旬～ 筑波大学附属図書館リポジトリ担当で実験開始
係長、シニアスタッフ、非常勤3名＝計5名

JAIRO Cloudとは未連携のため実証実験は論文登録手前まで
最終的にはJCと論文登録まで連携する

JAIRO Cloudに組み込む形での提供を前提

最終目標：

- ・グリーンOA化に取り組んでいる機関の作業タスク省力化
- ・リポジトリ全体のグリーンOA率増加

実証実験

- 版区分が本学確認のものと違う→OAでもauthor? publisherでは?
- 根拠や権利表示等にsubscription-basedポリシーのみ→OAなのに?
- アーカイビングポリシーの更新頻度→月一回程度が良いのでは
- 本学で確認済のポリシーと、検索結果に表示されるポリシーの齟齬
- 共著者多数の論文から、本学教員をどう特定するか
- 検索結果に通し番号もあると使いやすい
- ポリシーに出版社名が入るとなおよいのでは
- 検索の際、前回検索した日以降などの指定ができるとよい etc.

アーカイビングポリシーDB

業務の軽減化が期待できる点：

リポジトリ登録業務の最も時間がかかる部分である、各出版社、学協会のポリシー確認を一元化

Web of Science経由で自機関の論文を抽出すると、ポリシーの確認が同時にできる

今後、JAIRO Cloudとの連携ができれば登録作業も軽減化が期待